

危機

JJ1SXA 池

本年(2010年)8月14日付け朝日新聞の「天声人語」欄に次のような記事が掲載されていました。

…マネジャーは足元を見つめ、リーダーは地平線を見つめるものらしい。ただし、危機にある組織には遠近に目が利くトップがかかせない。急ぎの難題に向き合いながら、あるべき将来像を追うような。…

野球賭博問題、反社会組織とのつながり等で危機に直面する角界についての記事ですが、大変納得できる内容です。

私は、こんなリーダーやマネジャー像には、及びもつかないし、勿論そんな大それた立場でもありませんが、生涯一兵卒ながらも、240の一員として、心に止めおきたい言葉です。

こんな記事を読んで、一ヶ月も経たない、9月初旬、衝撃的なニュースが飛び込んできました、例の郵便不正事件を担当する、大阪地検特捜部の主任検事による、FDの交信日時書き換えという、証拠隠滅の話です、特捜部のエースと言われる検事が、一体どうしたのでしょうか？検事も人の子では済まされない由々しきことですが、上司も関係しているような話、単に検察の危機では無く、日本の危機です。

そして、またまた、尖閣諸島をめぐり、日中の摩擦、ロシア大統領の国後島訪問、日本外交のまずさが目立つ対応といわれますが、内も外も日本の危機と言える事件が続きます。

我が、240グループも30周年を迎えますが、今後も継続していくのかどうか、存続が危ぶまれる感を拭い得ません。

「長谷川町子」と言えば、言わずと知れた、漫画「サザエさん」の作者ですが、25年に渡って朝日新聞に、6477回連載を続けたそうですが、…むろん平らな道ではない、本人によれば、「スランプ峠」「マンネリ坂」「いきぎれ岬」、そんな「難所」を数々超えての長い旅路だったそうだ。…と、朝日新聞の「天声人語」の記事にありました。

当然この言葉は、240にも当てはまりそう、今までには、数多くの「難所」があり、それを乗り越えての長い旅路でしたが、更なる長い旅路を目指さなければいけません。

今年の「関東モービルハム同好会」の幹事グループとしての皆さんの働き振りを見れば、まだまだ240の体力は十分、「いきぎれ岬」を乗り越えて進みましょう。

来年1月に240グループが30周年を迎える時、私の運転免許証の更新を迎えます、前回の更新時、「高齢者講習」なるものを受講させられましたが、今回は、これに加えて「予備検査」いわゆる認知症検査の受講も求められました、また、一時、努力義務になった「高齢者マーク」も、道交法の改正で義務付けられました、いよいよ押しも押されもしない高齢者の仲間入りを果たします、大事な事で何時チョンボするかと心配です、来年1月を過ぎたら、今までのような仕事は一切免除願ひ、楽隠居で、一寸お手伝いをする程度にさせていただきます、各局どうぞよろしくお願ひ致します。